

地質調査技士に合格して

基礎地盤コンサルタンツ（株）
和田 英孝



1. はじめに

地質調査技士の合格発表から約10日後、「次回発行の『大地』に『地質調査技士に合格して』の原稿をお願いしたい。」と泣きの依頼(?)がありました。依頼を無下に断ることができず、「過去原稿を確認させていただき、折り返し返答させて下さい。」との言い逃れ・・・ちょっと調べてみると、不幸にも社内事情により広報委員に任命された事が判明！さらに断りにくくなり、「引き受けます。ただし、校正されると困るので誤字・脱字の訂正ぐらいにして欲しい。」ちょっとした抵抗を試みたのですが、「ありがとうございます！」との明るい返事により気分を改め、心地よく執筆することになりました。

過去の投稿文章を一読してみると、受験の動機や対策、試験時の心構えなど、各執筆者より親切丁寧なアドバイスが書かれていました。状況は各個人により異なっているので、「私のような変人・奇人の経験でも何かのお役にたてば・・・」との思いから、主観的な感想のみで申し込みから合格発表までの経緯について書かせていただきます。

2. 申し込みまで

記憶によれば5月上旬ごろ、社内のある方より、「地質調査技士を受験しなさい。」との指示がありました。これまでの経験から試験関係に合格することがほとんどなかった無能な変人には「なぜ自分に白羽の矢が？人柱か？」との思いもありましたが、いろいろな諸事情があったようです。その後、過去の問題と申込用紙が社内の別の方から届き一読したところ、「マークシート？！申込用紙まで用意して

あるので観光を兼ねて受けてみるか・・・」というのが実状でした。

3. 受験まで

申し込み後によく過去問題をゆっくり読みました。その際に衝撃的な事実が判明！出題範囲の広さとディープな専門知識の必要性が求められており、「マークシートの神様」に頼むことになりました。

生真面目に勉強することが嫌いな変人は過去の問題をもう一度見直しました。出題頻度の高い問題を絞り込み、「ボーリングハンドブック」などで「丸暗記」ではなく「理解」に重点を置きました。出題頻度の少ない問題については現場での経験を思い出し、「作業目的」を捉えることで対処しました。また一般教養については出題予想を絞ることが出来ず、「これまでの勉強不足を今更補えない。」と結局は「マークシートの神様」頼みになってしまいました。(情けなかった)

試験前日は移動時間の電車の中と薄暗いホテルの部屋で出題頻度の確認と理解をおこないました。よくよく考えると、これが初めて集中して勉強した時間でした。(仕事の能率が悪いので、時間を作れず・・・ちょっと言い訳)

4. 試験当日

目覚めた時は少々辛かったです。それほど疲れもなく程良い緊張感で試験を受けることが出来ました。試験問題についての詳細はこの場では記載しませんが、昼食時の解答確認で「7割程度か？経験と違って面接も受けよう！」と敵前逃亡せずに受けました。

面接ではこれまでの経験や調査法の一

.....

般論が問われました。質問事項の内容を的確に捉えて「ゆっくり・はっきり」と答えることに終始しました。

面接終了後には家族や社内へのお土産をごく僅かですが買い込み、重い体を引きずるように帰ったことを記憶しているのみです。

5. 合格発表

合格発表当日は朝から現場に直行し、発表日ということすら忘れていました。事務所に帰った時に1枚のFAX。「合格おめでとう！」?? なんのことやらわからなかったのですが、試験会場で遭遇し、まじめに勉強しなかった事を怒られた社内の方からでした。FAXだったので事務所の皆さんに知れ渡っており、「おめでとうございます」とのお言葉・・・内心は

「神様ありがとう！悪あがきを見てくれて・・・だけど『責任』がついてくるんだな～」というのが第一感でした。

6. おわりに

関係者各位のおかげでなんとか合格することができました。この文面を読んで「裏読み」する方、無許可で登場させられた方、「なぜ私が出てこないのだ！」と怒っておられる方など多数居られると思いますが、この場を借りて謝罪と感謝の意を表します。また、「これからが本当の勉強だ！」の意を強く感じていることを記して、「奇人・変人の受験ドキュメント」を終わらせて頂きます。

(読者の方々へ：変な文章をお許し下さい)

(編集の方々へ：こんな文章でもOK?)



川崎地質(株)
金野 崇

平成16年度より、地質調査技士の部門に「土壌・地下水汚染部門」「宅地地盤部門」が新設され、試験が行われるようになる。今までの地質調査技士は、ボーリング技術者のための資格、というスタンスであったが、今回の試験制度の見直しは、さらに広い分野までカバーするとい

う変化を示している。.....

自分がこの業界に入ってから5年半が過ぎ、現在は主に現場管理と地質調査報告書の作成を行っています。ボーリング、物理探査等の結果から、地質断面や地盤常数の設定など、いわゆる一般的な地質調査報告書を作成してきました。

しかしこの2~3年に、年間1、2件の割合で、点検業務も手がけるようになってきました。土石流、急傾斜、樋門点検などです。ほとんどが目視・簡易な測量を調査方法として現地を観察し、危険度・重要度のランクを設定して、対策の有無を判断する。これらの業務は、はじめかなり戸惑いました。何を判断の基準とするのか。地質屋として地質の分類・常数の設定をしてきたとは、また違った知識が必要でした。

何度か痛い目にあって、最近ようやく気づいてきたのは、どの点検業務にしろ、その背後には必ず地質・土質状況が重要な位置としてあることでした。樋門点検は、樋門とその周辺堤防を点検対象としており、構造物の変状調査の意味合いが強いものです。しかし、樋門に変状を起こす原因としては、堤防の圧密沈下、軟弱地盤の分布、基礎地盤の土質などがあり、地質と深く関係するものでした。そのため、それがわ

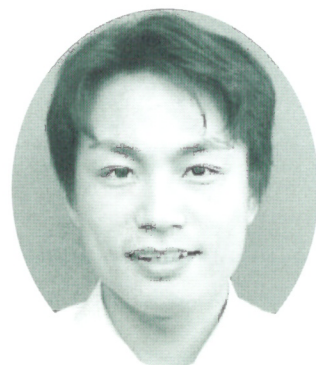
かっていないと、有効な対策を立てることはできない。

結局もとに戻ったと言うか、地質がやっぱり基礎なんだ、というのが感想でした。

これからもいろいろな仕事に携わって行くと思います。特に環境分野が関わってくることでしょう。その中で地質屋として、十分な力を発揮できればいいと考えています。

現場でオペレーターの方と話すとき必ず、仕事が減ったという話がでます。確かに減っている（縮小しつつ、複雑になっている気がする）。それに、お金の話は正直避けたいのが本音です。でも1つ考えてほしいのは、自分の仕事の幅を広げて欲しいということです。以前お世話になった岡山のあるオペレーターは、土石流点検にも行っていました。「点検は安い」と話していましたが、点検の合間にちゃんと掘っていました。

(株) 復建技術コンサルタント 大澤 宏明



1. はじめに

この度、地質調査技士に合格することができましてありがとうございます。この場を借りて過去の問題等の資料を提供して頂き、受験対策に御協力して頂い

た諸先輩方々に御礼申し上げます。

2. 受験理由

私が地質調査技士の受験を決意した理由は様々ありますが、一番の理由はボー

リング作業の現場管理を行っていく上で、ボーリングコアの採取率向上や現場のトラブルを防ぐためにはどうしたら良いのかをオペレータにお任せしていたところがあり、地質の変化に伴いビットや送水圧等の調整について、オペレータと共に知恵を出し合ってより効果的な作業ができればと思い、地質調査技士の資格の必要性を感じたからです。

3. 受験対策

やっぱり、過去の問題集を何度も解いてみることです。択一問題の解き方としては、「正しいものを選べ」とあっても正しいものだけが解ればよいのではなく、「なぜ他の事項が間違っているのか」を確実なものにしていくのです。そして、なんとなく正解した箇所や解らない問題に対しては、参考図書としてボーリングポケットブックで調べ、頭に叩き込むことです。それを何度も繰り返すことで自分の不得意分野を把握することが出来るのです。また、過去の問題とまったく同じ問題がでることは少ないと思いますが、過去の問題を解くことで類似した問題にも対応することが出来るはずですよ。

ちなみに私は、過去4年分位の問題を集め取り組みましたが、現場管理しかしていない私にとっては現場技術の部門は正解率が悪く問題を頭でイメージするのが大変でした。

過去の問題が大体把握することができたら、ボーリングポケットブックでチェックした箇所について何度も読むことです。私は書いて覚えるのが苦手でしたから、ひたすら読んで覚えました。

4. 受験当日

午前中の筆記試験の感触は、まずまずかなと思っておりましたが、筆記試験の解答が掲示されており、自己採点すると八十数点？これは、合格ラインぎりぎりではないですか。午後の口頭試験で悪い評価をされる訳にいかず、質問に対しては必至でアピールしました。

口頭試験は、試験官が2人に対して受験者が3人で行われましたが、私の場合は、最後の順番でしかも受験者の同席者は同じ会社の同僚であったため、リラックスして臨むことができました。質問の前に現場管理を行っているか？現場作業に従事しているか確認され、私の場合、現場管理に関しての質問となりました。

質問内容は、現場管理の際の気をつけている事・原位置試験の留意事項・安全管理はどうしているかなど質問されましたが、自分の失敗談なども答え、現場を数多く経験し知識も蓄えていることをアピールすることに気をつけて受け答えを致しました。最後には、コアサンプルから岩石名を答え終了。

その結果が功を奏したのか、なんとか合格することができました。

5. おわりに

私の現在の仕事の内容は、防災に関わる地質調査及び設計業務に携わっておりますが、地質調査結果が設計業務に反映され、施工が実施される訳ですが、地質調査結果の理解度や精度についての知識があるのとないのでは全く違い、設計への反映の仕方も違ってくるところを現在痛感しているところです。

来年度からは、現場管理部門と現場調

.....

査部門に分けられるようですが、更に現実的で現場のニーズに合った試験内容に変化していくようです。従って、平成15年度の受験対策はやや難しいものとなるかも知れませんが、合格の秘訣は、地質

調査技士の資格の必要性について受験者自身が強く感じるのだと思います。その分、受験対策への取り組み意識が強いものとなり、合格へ近づくのではないかと思います。

基礎工学（有）
伊瀬谷 昇

.....



1. はじめに

50歳も目前に迫った私が、若い技術者に混じって地質調査技士検定試験を受験し、合格直後に原稿依頼がきました。「困った。もっと若い技術者にお願いできないのかなー」と一旦は断りましたが、引き受けることとなってしまいました。

さて、何を書けばいいのかほとんど困りましたが、過去の例に違わず受験動機～今後の方針について書くこととします。

2. 受験動機

私が受験したのは、2つの動機によるものでした。

- ① 現場技術の再確認（若手技術者の指導・現場管理を行うため）
- ② 会社・技術者の評価

私たちの業務は、クライアントとの打合せ（内容協議、結果報告）から技術管

理（調査計画・結果のとりまとめ）および現場管理（工程・仮設計画、安全管理）などです。このうち、現場管理技術は現場オペレータとの意思疎通をはかるため、若手技術者に現場を経験させる上でも重要なものです。

若手技術者を指導していく上で、いかに自分が現場任せにし、現場技術が未熟かを思い知らされています。経験とは名ばかりの大雑把な知識で物事を進めていたようです。（きっと、オペレータが優秀だから、問題とならなかったのでしょう）

地質調査技士資格試験を勉強・受験し、現場技術を含めた調査技術を基礎から再確認しようとしたことが一つ目の動機です。

私たちが携わっている地質調査業に関する技術資格（技術士・RCCM・土木施工管理技士・さく井技能士・地質調査

.....

技士など)は、いずれも自動車免許・医師免許と異なる助成資格で、なくとも仕事自体はできるものです。しかし、この資格の保有(保有の有無、保有者の人数)が技術力を評価する指標となって、入札における会社・社会における技術者(個人)のランク付けが行われています。

いかに経験豊かな優秀な会社・技術者でも資格がないと、評価が低く、受注量が少なく、質も悪くなるようです。二つ目の動機はここにあります。

3. 受験対策および試験前夜～当日

受験動機で述べたように、現場管理技術を再確認するのが目的でありましたので、「ボーリングポケットブック」「地盤調査ハンドブック」を参考書に「ボーリング機器」「運搬・仮設」「掘進技術」「管理技法」の項目を確認することとしました。さらに、平成8年以降の問題を解きましたが、「ボーリング機器」「掘進技術」に関しての理解度が低く、数回参考書を読み返すこととなりました。いまだかつて、イメージの湧かないものが多く、必要に応じてオペレータに確認している状況です。

試験前日に眺めていたものと同様のものが4～5問程度出題されたためか、午前中の択一問題は9問程度の間違いですんだようです。

午後の面接では、若い技術者に質問が集中したためか、私への質問は2～3問でした。が、あまりリラックスしすぎて、「管理者として、KYK等を行っているんですね」に対して「KYKって何でしたっけ、ちょっとわかりません」ととんでもない回答してしまいました。

「もしかして」と思いましたが、発表日に受験番号を見つけることができはってしています。

4. おわりに

私は、何の試験でもそうですが、何がわかって何がわからないのかを理解してから対策を考えることとしています。また、若干でも参考書、問題集を読むようにしています。それでも落ちた場合には、再度受験すればいいじゃないですか。

参考書を読むことによって、一回目より二回目、二回目より三回目と回を重ねるほど得るものもあるはずですが、運悪く落ちた人の方が、合格した人より知識が豊かになっているかもしれません。

そう考え、ほかの技術試験にも挑戦し続けています。